

TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI SANMEI Team TARO PLUSONE 2024

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

MOTEGI 2&4 RACE

2024 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦

- 栃木県
- クラス / JSB1000
- モビリティリゾートもてぎ
- マシン / BMW M1000RR
- 1周 = 4.801km
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 #12 関口 太郎

予選

10位
(タイム: 1分49秒922)

8月24日(土)
天候: 晴れ
コース: ドライ

決勝

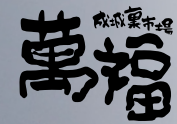
8位

8月25日(日)
天候: 晴れ
コース: ドライ

SDG



三明電気工事





限られた時間の中で集中して得た8ポイント

全日本ロードレース選手権シリーズ第5戦MOTEGI2&4レースの決勝が8月25日(日)に行われ、SANMEI Team TARO PLUSONEの関口太郎が8位でゴール。シングルフィニッシュを果たした。

鈴鹿8耐を終え、BMW M1000RRは、耐久仕様からスプリント仕様に戻し、第3戦SUGO以来、約3カ月ぶりの全日本となる。今回のレースは、4輪のスーパーフォーミュラ併催の2&4レース。夏休みということもあり、多くの親子連れがモビリティリゾートもてぎを訪れていた。天気予報は、雨マークがあり、土曜の夕方に激しい雷雨があったものの、走行するときは青空が広がり、湿度の高い蒸し暑いコンディションのもとで行われた。



金曜日は、走行開始直後にマシントラブルが発生。転倒せずにピットに戻ることができたが、セッションを中断させてしまう原因になってしまっていた。もう1台のマシンで再びコースインすると1分51秒536をマークし14番手につけていた。続く2回目の走行でも、走り始めてすぐにマシントラブルが出てしまう。少ない周回しかできていなかったが流れが悪いと感じた関口は、ここで走行を切り上げ、マシンの修復とトラブルの原因を洗い出すことにした。



土曜日の公式予選は、12時45分から40分間で行われた。限られた時間の中で、まずはマシンを確認し、暑くなったコンディションに対応するために、足回りをアジャストする。セッション終盤にニュータイヤを履いてコースインすると、前にゼッケン1を付ける中須賀選手が表れる。うまく目標にでき、1分49秒台に入れることに成功。予選10番手と、金曜日に、ほとんど走れなかった割りには、上々のポジションに着けた。

決勝に向けて、よりアベレージが上がる方向でセットを進め、日曜日朝のウォームアップ走行で確認。後はレースを迎えるだけだった。

シグナルがブラックアウトし、一斉に1000ccのモンスターマシンがスタート。関口は、まずまずのスタートを切り、序盤の混戦を落ち着いてこなしていく。スポット参戦



のライダーに引っかかりながらも、5周目にかわして9番手に浮上。前を走る集団についていきたいところだったが、徐々に離されると単独走行になっていく。9周目に前を走っている1台がマシントラブルでリタイアしたため8番手にポジションを上げていた。そこからは、淡々とペースを刻みながら周回を重ねていたが、背後から伊藤和輝選手が迫ってきていた。残り3周というところかわされるが、最終ラップに伊藤選手のマシンにトラブルが発生したため再び前に出てゴール。昨シーズンの開幕戦以来となる8位フィニッシュを果たした。



初日はマシントラブルで、ほとんど走ることができなかったのですが、チームスタッフのおかげで予選、決勝と良い流れを作ることができたと思います。最後はタナボタもありましたが、8位とシングルフィニッシュできました。今回は、鈴鹿8耐に続き、プレハブを手配して下さった三明電気工事様、ウインドレーサーを設置して下さったSDG株式会社様のおかげで快適にレースウイークを過ごすことができました。暑い中、応援に駆けつけて下さった多くのスポンサー様、ファンの皆様、ありがとうございました。

関口 太郎

